



平成30年度
教育委員会評価報告書

平成29年度事業



佐用の明日を担う ころろ豊かな人づくり

平成30年8月

佐用町教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 教育委員会の活動状況	3
第2章 点検・評価の結果	7

『 構 成 』

数字1～6：教育施策の重点目標

() 数字：重点施策

○ 数字：具体的施策

1 未来に向かって「夢」をはぐくむ

(1) 温もりのある教育活動の展開	9
① 子どもの思いの把握	
② 学力・体力の実態把握	
③ 児童生徒の実態に基づいた学校運営	
(2) 特色のある教育活動の展開	9
① 小中学校における教育課程の編成	
② 保育園における保育・教育課程の編成	
③ 郷土学習と地域資源の活用	
④ 実効性のある学校評価の推進	
(3) 保幼小中連携の充実	10
① 保幼小連携の充実	
② 就学前教育の充実（町行政との連携）	
③ 小中連携等の充実	
④ 生徒指導体制の充実	
⑤ 人権教育の充実	
(4) キャリア教育の推進	11
① キャリア教育の推進	
② 進路指導の充実	
(5) 学校・園と家庭との連携	11
① 保護者との連携	
② PTA 研修の推進	
③ 保育園保護者会研修の推進	

2 「生きる力」を培う

(1) 確かな学力の定着と個に応じた指導の充実	12
-------------------------	----

- ① 基礎・基本の確実な習得
- ② 主体的に学ぶ態度の育成
- ③ 様々な形態による学習指導の充実
- ④ 特別支援教育の充実
- (2) 教職員の資質向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - ① 豊かな人間性の向上
 - ② 指導力の向上
 - ③ 情報機器（ICT等）の積極的活用
- (3) 健やかな身体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - ① 食育の推進
 - ② 心身の健康づくり
 - ③ 体力向上への取組
- (4) 豊かな心の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
 - ① 芸術文化活動の推進
 - ② 読書活動の推進
 - ③ 特別活動の充実
 - ④ 道徳教育の研究推進

3 豊かな人間性や社会性を育てる

- (1) 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - ① 問題行動等への指導体制の充実
 - ② 不登校児童生徒への対応
 - ③ 相談機能の充実
- (2) 体験活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - ① 自然学校の充実
 - ② 「トライやる・ウィーク」の推進
 - ③ 環境教育の推進
 - ④ 福祉教育の推進
- (3) 社会の変化への対応力の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - ① 国際化に対応する教育の推進
 - ② 情報教育の推進
- (4) 郷土の伝統文化を大切にすることの育成・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - ① 郷土学習の充実
 - ② 歴史・文化施設の活用

4 地域に根ざし開かれた学校・園をつくる

- (1) 地域と連携する学校・園づくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - ① 地域資源の活用
 - ② 開かれた学校・園づくりの推進
 - ③ 学校評議員会・学校関係者評価の活用

(2) 安全・安心な学校・園づくりの推進	18
① 安全・安心な施設・設備の充実	
② 登下校の安全確保	
③ 安全教育の充実	
(3) 防災教育の推進	19
① 防災教育の充実	
② 防災体制の充実	
③ 心のケアの充実	
(4) 地域の教育活動との連携	19
① 青少年の健全育成	
② 地域行事への参加	

5 明るく豊かで活力に満ちた社会をつくる

(1) 家庭や地域の教育力の向上	20
① 家庭の教育力の向上	
② 地域の教育力の向上	
(2) 人権文化の創造	20
① 人権教育の充実	
② 人権教育の連携	
(3) 芸術文化の振興	20
① 拠点施設の充実	
② 芸術・文化活動の推進	
(4) スポーツ・レクリエーションの振興	21
① 生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進	
② 競技力の向上及び人材育成	
(5) 多様な学習機会の充実	21
① 図書館活動の推進	
② 社会教育の充実	
③ リーダーの育成	
(6) 文化財の保護と地域活動	22
① 文化財の保存と活用	
② 伝統文化の保存と継承	

6 社会の変化に対応する学校・園をつくる

(1) 学校・園規模適正化の推進	23
○ 学校・園規模適正化推進計画の推進	
(2) 子ども・子育て支援事業の推進	23
○ 子ども・子育て支援事業計画の推進	

はじめに

佐用町と佐用町教育委員会は、平成 22 年度に策定した「第 1 期佐用町教育振興基本計画」の進捗状況とその評価を踏まえると共に、幼児期の教育、家庭教育、社会教育を加える中、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 か年間の「第 2 期佐用町教育振興基本計画」を平成 27 年 3 月に策定しました。

その理念は、第 1 期同様に「夢ある教育 きらめきプラン(佐用の明日を担う ころ豊かな人づくり)」として、夢や希望をもち、いきいきとかがやきながら活動する子どもをイメージし、表現しています。変化の激しい社会の中で、社会的自立に必要な能力等を育成し、将来の夢や目標をもちながら、それに向かって進みはばたいていく力の育成を目指しています。

「佐用の明日(あす)を担う、ころ豊かな人づくり」には、思いやりの心やふるさとの自然や伝統文化を大切にし、生涯を通じて“ふるさと佐用”を愛する心をもち、広く社会に貢献できる人に育てほしい、という願いが込められています。

平成 30 年度においては、「第 2 期佐用町教育振興基本計画」に基づき、平成 29 年度に実施した教育委員会の活動状況を報告し、夢ある教育きらめきプランの重点目標に関わる施策の柱(25 項目)・具体的施策(68 施策)を単位として点検・評価しました。

この点検・評価結果につきましては、3 人の外部有識評価員から意見を得ることによって客観性を担保するとともに、説明責任を果たすため、町議会へ報告し、広く公表することとします。

1. 趣旨・位置づけ

佐用町教育委員会(事務局：教育課・生涯学習課)は、効果的な教育行政の推進と説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 26 条の規定に基づき、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施しました。

その点検及び評価結果の客観性の向上を図るため、外部有識者評価員からの意見聴取をしました。

2. 対象

点検及び評価は、平成 29 年度に実施した教育委員会会議及び教育委員の活動状況並びに教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を対象に実施しました。

『評価基準』

達成状況を 4 段階で評価し、該当する達成段階に応じて A~D までを記入しました。

達成段階	達成段階の点数化
A：目標を上回った。	90 点以上 100 点以下
B：ほぼ目標どおりだった。	70 点以上 89 点以下
C：目標をやや下回った。	50 点以上 69 点以下
D：目標を大きく下回った。	0 点以上 49 点以下

3. 構成

第 1 章 教育委員会の活動状況

平成 29 年度の教育委員会会議及び教育委員の活動状況を記載しました。

第 2 章 点検・評価の結果

「夢ある教育 きらめきプラン(佐用町教育振興基本計画：平成 26 年度策定)」に掲げる重点目標に関わる重点施策(25 項目)・具体的施策(68 施策)を単位として、その進捗状況の点検・評価を実施しました。

点検・評価に当たっては、各施策の具体的な取組状況を示すとともに、各施策の達成状況及び成果と課題をまとめました。

4. 外部有識者評価員

岡野俊昭	教育に関し学識経験を有する者	元高等学校 校長
蔭木早苗	同上	元小学校 校長
岸井春乗	教育に関し識見を有する者	図書館協議会 委員長

【参 考】

○ 教育基本法（平成 18 年法律第 120 号・全部改正）

（教育振興基本計画）

第 17 条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号。平成 19 年法律第 97 号・全部改正）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○ 佐用町教育振興基本計画（平成 26 年度策定）

第 1 章 策定にあたって

1 策定の趣旨

(1) 策定にあたって

平成 26 年度中を改定期間とし、改定にあたっては、学識経験者や教育関係者、住民代表からなる第 2 期佐用町教育方針策定委員会を組織した。

本計画の対象期間は、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間であり、進捗状況については、毎年の教育委員会評価等において検証していく。

第 2 期佐用町教育振興基本計画では、国及び兵庫県の計画との整合や時代の変化等を踏まえて検討することとする。

第1章 教育委員会の活動状況

教育委員会の活動状況

【背景】

教育には、①政治的中立性の確保、②継続性・安定性の確保、③住民の意向の反映、また、教育行政には、首長との連携を図りつつ、①首長からの独立性、②合議制、③住民による意思決定が求められており、これらを背景に、教育基本法を教育の根本法として、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、佐用町教育委員会を設置（第2条）し、教育長と4人の教育委員をもって構成している。

【平成29年度の教育委員会等の活動の状況】

佐用町における義務教育の質を高め、児童生徒や保護者、住民の義務教育に対する信頼を確保する上で、教育行政を担う教育委員会の役割が益々重要となっている。

このため、定例教育委員会の会議開催に加え、早急に協議すべき事案が生じた場合には、臨時の教育委員会を開催するなど、教育行政を取り巻く課題等に対して柔軟な対応を図るとともに、学校教育現場への訪問を通じて、その実情の把握や教職員からの意見聴取など、それぞれの教育委員の見識を発揮しながら、教育委員会活動の更なる充実に努めた。

また、教育行政全般にわたる透明性の確保と説明責任を果たすため、総合教育会議や教育委員会会議を公開し、その内容を町ホームページに掲載するなど、第2期佐用町教育振興基本計画内容や総合教育会議において確認された主要事業を広報等へ掲載している。

【平成29年度の教育委員会の主な活動実績】

1. 教育委員会会議

(1) 定例・臨時教育委員会の開催

① 定例教育委員会会議の開催

定例教育委員会の会議は、教育長が原則として毎月招集・開催し、義務教育行政全般や学校教育に関する重要事項等を審議した。（開催回数：12回）

臨時教育委員会の会議は、開催しなかった。

② 定例・臨時教育委員会の公開

公開とした教育委員会は、12回で、傍聴者数は0人であった。

③ 教育委員会会議の審議内容

○ 議案審議

うち ・基本方針の決定、主要事業の審議、規則等の制定・改正 7件

・教育委員会評価 1件

・その他（要保護・準要保護の認定、小学校教科用図書採択、心身に障がいがある児童・生徒の適正就学） 8件

○ 協議報告事項

教育委員会評価、子育て支援事業、利神城跡等の国指定関係、学校規模適正化、学力学習調査結果、子ども読書活動推進計画、学校施設整備関係、会議等報告 その他 29件

④ 管理職選考に係る面接他 2回

(2) 会議録の公表

会議録の申請による閲覧については、平成29年度はなかった。

なお、町ホームページにおいて、会議録を公表している。

(3) 教育委員会広報「教育さよう」の発行（年3回）

2. 総合教育会議／構成：町長、教育長及び教育委員（4人）

(1) 会議の開催

① 定例・臨時会議の開催

定例会議は、町長が、原則として年2回招集・開催し、教育行政全般にわたる重要事項・主要事業等を協議・意見交換した。（開催回数：2回）臨時の会議は、29年度はなかった。

② 定例・臨時会議の公開

公開とした会議は2回であったが、傍聴者はなかった。

③ 会議の協議内容

教育行政（生涯学習含む）・子育て支援事業等に係る主要事業・進捗状況など

(2) 会議録の公表

会議録の申請による閲覧については、平成29年度はなかった。

なお、町ホームページにおいて、会議録を公表している。

3. 小中学校への訪問及び教職員の意見聴取

(1) 小中学校への訪問

教育委員4人、教育長、教育課長、教育推進室長及び学校教育指導主事が各小中学校へ訪問し、佐用町教育委員会の重点施策、指導の重点等について確認した。

学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施の確認、学校評価の適切な実施やその活用、目的加配教員・特別支援学級担当教員、施設・設備等の現状把握等の適正な配置・運営状況の確認等を行った。

平成29年度 訪問件数 全小学校（6件）、全中学校（4件）

(2) 教職員の意見聴取

学校訪問時に、上記の訪問目的等に対する教職員の意見聴取を行った。 10件

(3) 小中学校行事への出席

各委員が、町内小中学校の入学式、卒業式、文化祭、音楽会、運動会、体育祭、オープンスクール、「トライやる・ウィーク」などの式典・行事に出席した。

4. 教育施策の推進に係る会議や行事への参加

(1) 教育施策の推進に係る会議等

教育行政に係る子育て支援事業等の主要事業について、教育委員会で、随時、教育長、教育課長及び各室長が、その実施状況等を報告した。

また、教育長、教育課長、生涯学習課長及び各室長が、自治会長会議や議会等において、その実施状況等を報告した。

(2) 他市町教育委員会等との交流

次の大会や研修会に各委員や事務局が出席し、他市町の教育委員会等と交流した。

- ① 兵庫県女性教育委員の会幹事会 (H29. 4.18／神戸市)
- ② 兵庫県市町村教育委員会連合会常任理事会 (H29. 4.19／神戸市)
- ③ 県教育委員連合会総会・研修会 (H29. 5.22／洲本市)
- ④ 兵庫県女性教育委員の会総会・研修会 (H29. 6.28／伊丹市)
- ⑤ 中・西播磨地区市町教育委員会連合会理事会 (H29. 8. 8／姫路)
- ⑥ 全県夏季教育委員会研修会 (H29. 8.22／神戸市)
- ⑦ 中・西播磨地区女性教育委員研修会 (H29.10.18／たつの市)
- ⑧ 近畿市町村教育委員会研修会 (H29.10.24／紀の川市)
- ⑨ 新任教育委員研修会 (H29.11.10／神戸市)
- ⑩ 兵庫県女性教育委員の会幹事会 (H29.11.22／神戸市)
- ⑪ 兵庫県市町村教育委員会連合会常任理事会 (H30. 2.16／神戸市)
- ⑫ 中・西播磨地区市町教育委員会連合会理事会 (H30. 2.20／姫路市)

5. その他の教育委員会の活動

- ① 佐用町立図書館協議会に、教育委員として会議に出席し、図書館の運営に関して館長の諮問に応ずるとともに、各支所の図書館の充実について意見を述べた。
- ② 各委員が各中学校で開催された、「トライやる・ウィーク」推進会議・ボランティア会議に出席し、「トライやる・ウィーク」推進についての意見を述べた。
- ③ 教育委員が、佐用町社会福祉協議会評議員として評議員会に出席し、社会福祉協議会の事業・会計等について審議した。
- ④ 小中学校管理職・教育委員合同研修会（平成29年4月9日）
- ⑤ 保幼小中管理職研修会（佐用地域7/31、上月地域7/27、南光地域7/31、三日月地域8/7）
- ⑥ 利神城跡保存活用計画策定委員会（平成30年2月27日）

6. その他行事への参加・出席

各委員が、次の行事に参加・出席した。

- ① 佐用町人権教育協議会研究大会
（平成29年7月24日 上月中学校 主催：佐用町人権教育協議会）
- ② 犯罪のないまちづくり町民のつどい
（平成29年7月25日 さよう文化情報センター 主管：企画防災課）
- ③ 人権まちづくりフェスタさよう
（平成29年11月25日 さよう文化情報センター 主管：生涯学習課）

第2章 点検・評価の結果

教育委員会の事務の管理及び執行の状況

『評価基準』

進捗（達成）状況を4段階で評価し、該当する進捗（達成）段階に応じてA～Dまでを記入しました。

進捗（達成）段階	進捗（達成）段階の点数化
A：目標を上回った。	90点以上100点以下
B：ほぼ目標どおりだった。	70点以上89点以下
C：目標をやや下回った。	50点以上69点以下
D：目標を大きく下回った。	0点以上49点以下

＜評価・点検の概要＞

平成30年度に評価した平成29年度実績に対する教育委員会評価につきましては、第2期佐用町教育振興基本計画（平成27年度～平成31年度）の3年目の点検・評価の報告となります。

第2期においては、第1期の評価を踏まえた上で、幼児期の教育、家庭教育、社会教育が加わっております。平成29年度実績に基づく、点検・評価の状況は、次のとおりです。

●[重点目標に基づく重点施策と具体的施策]

- ・点検・評価した25の重点施策すべてが、B評価の「ほぼ目標どおりだった。」で、前年度と同様の達成となっています。
- ・具体的施策68事業については、B評価の「ほぼ目標どおりだった。」が67事業（98.5%）で、全体として目標どおりの達成状況となっています。なお、67事業のうち1事業は、前年度A評価だったものですが、内容的には前年度を大きく下回るものではありませんでした。
- ・C評価の「目標をやや下回った。」とする事業は、前年度の3事業から1事業（約1.5%）になっています。なお、2事業はB評価となっています。
C評価となった事業は前年度と同じ項目なので、目標が達成できない要因を分析し、新たな取り組み方法も検討しながら進めていく必要があると考えています。
- ・D評価の「目標を大きく下回った。」とした事業は、前年度に引き続きありません。

【具体的施策の評価まとめ】（68事業）

重点目標 \ 評価	A	B	C	D
1. 未来に向かって「夢」をはぐくむ	0	17	0	0
2. 「生きる力」を培う	0	14	0	0
3. 豊かな人間性や社会性を育てる	0	11	0	0
4. 地域に根ざし開かれた学校・園をつくる	0	11	0	0
5. 明るく豊かで活力に満ちた社会をつくる	0	12	1	0
6. 社会の変化に対応する学校・園をつくる	0	2	0	0
合 計	0	67	1	0

1 未来に向かって「夢」をはぐくむ

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29		
(1) 温もりのある教育活動の展開	B	B	①子どもの思いの把握	B	B	○日記、連絡帳、生活の記録ノート等の活用	B	B		
						○アンケート調査の実施と分析	B	B		
						○家庭訪問	B	B		
						○個別懇談	B	B		
						○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用	B	B		
						○学校生活支援教員配置事業	B	B		
						○児童生徒支援教員配置事業	B	B		
			○スクールアシスタント配置事業	B	B					
			②学力・体力の実態把握	B	B	B	B	○町・全国学力学習状況調査とその分析	B	B
								○課題解決に向けた指導法の研究とその改善・推進	B	B
○佐用町教育事業(確かな学力きらめきプラン)	B	B								
③児童生徒の実態に基づいた学校運営	B	B	B	B	○学力学習状況調査	B	B			
					○体力・運動能力、運動習慣等調査	B	B			
					○「学校経営概要」の策定	B	B			
						○「年間指導計画」の策定	B	B		
						○「保育課程」の策定	B	B		
成果と課題	<p>児童の実態を把握するために、家庭訪問や個別懇談等を行い、保護者と連携しながら個別に細やかな対応ができています。また、日記や生活ノートを通して児童生徒の内面理解を図っている。</p> <p>「確かな学力きらめきプラン」事業等の各種調査を実施。結果を検証して課題を明らかにし、手立てを講じることで成果が表れてきている。</p> <p>子どもたちの実態や地域の実情をふまえて教育目標を設定し、PDCAを行いながら教育課程が編成されている。</p>					<p>個に応じた教育の増加は評価できるが、個々の児童生徒の指導・懇談・生活記録等のあり方を研究し、教員が記録しやすい方法の開発を望む。また、その結果を活かすあり方について、教育委員会でも検討してほしい。</p> <p>どの学校も少人数のクラス編成となっているが、複数指導も増え、子どもの思いに寄り添うきめ細かな指導ができていると思う。学力調査においても、少人数だからこそ個別指導に力を入れ効果が上がっていると思う。また、複数指導の良さや教育機器の活用により、授業力アップがなされている。</p>				
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29		
(2) 特色のある教育活動の展開	B	B	①小中学校における教育課程の編成	B	B	○学校評議員会の活用	B	B		
						○学校関係者評価の活用	B	B		
						○地域の自然や文化等を活かした特色のある教育課程の編成	B	B		
						○中学校区における小中連携事業	A	B		
			②保育園における保育・教育課程の編成	B	B	B	B	○保育・教育課程の編成	B	B
○保護者参画の体制づくり	B	B								
③郷土学習と地域資源の活用	B	B	B	B	○副読本『わたしたちのまち郷土佐用町』を活用した郷土学習	B	B			
					○総合的な学習の時間等における郷土の自然・歴史・文化・伝統の学習	B	B			
④実効性のある学校評価の推進	B	B	B	B	○ゲストティーチャーの招聘、実地見学	B	B			
					○学校だより等による公開	B	B			
						○学校評価システムの確立	B	B		
成果と課題	<p>各中学校区において、授業研究会等を通して小中連携を積極的に行い、情報交換も密に行っている。</p> <p>今後はさらに利神城跡や三日月陣屋門等の歴史遺産を授業に活用した取組みを進めていく。</p> <p>学校便り等で地域に積極的に情報発信するとともに、学校関係者評価等も教育課程の編成に有効に活用できている。</p>					<p>学校評議員会の意見等を教員全体が共通認識できるシステムの構築が必要である。</p> <p>郷土学習は自分の住むまちを愛し、発展させる意欲につながるような企画を望む。</p> <p>学校教育目標の共通理解が進み、きちんと学校評価ができています。郷土学習は、校区内にとどまらず町全体の必須箇所を設け、系統的に実施すると無理なく落ちなくできるのではと思う。</p>				

1 未来に向かって「夢」をはぐくむ

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(3) 保幼小中連携の充実	B	B	①保幼小連携の充実	B	B	○保幼小連絡会(授業参観、保育参観等)	B	B
						○保幼小交流会(新入生体験入学、体験活動等)	B	B
						○保幼小つながりあうカリキュラムの作成	B	B
						○保幼小連携推進連絡会	B	B
						○保幼小連携実践交流会	B	B
②就学前教育の充実(町行政との連携)	B	B	B	B	○基本的生活習慣の確立、自主自立、集団生活への適応等を図る指導	B	B	
					○年齢別カリキュラム研修会	B	B	
					○保育園訪問による情報の共有	B	B	
③小中連携等の充実	B	B	B	B	○小中連絡会(授業参観、情報交換会)	B	B	
					○小中交流会(交流給食、部活動見学、「ミニトライやる」)	B	B	
					○中高連絡協議会(授業交流、情報交換会)	B	B	
					○佐用町教育事業(小中連携教育研究会)	B	B	
					○英語指導力向上事業	B	B	
④生徒指導体制の充実	B	B	B	B	○佐用町保幼小中高児童生徒指導連絡協議会での連絡調整	B	B	
					○生徒指導研修会	B	B	
					○中学校区ごとの生徒指導部会(地域別部会・校種別部会)	B	B	
					○佐用町教育事業(生徒指導協議会)	B	B	
⑤人権教育の充実	B	B	B	B	○佐用町人権教育協議会研究大会(講演、分科会)	B	B	
					○佐用町人権教育協議会地区研修会(ブロック研修会)	B	B	
					○佐用町人権教育協議会指定研究の実施	A	B	
					○人権作文集「人権さよ」の発行	B	B	
成果と課題	<p>保幼小の連携については、保育参観や研修会を行い情報交換を密に行っている。</p> <p>小中連携については、平成29年度から年度初めに合同研修会を開催するとともに、積極的に授業参観を行っている。</p> <p>生徒指導連絡協議会において、保幼小中高で情報を交換し、連携をとりながら指導方針を確認している。</p> <p>佐用町指定の研究発表会に向け、小中合同で授業研究会を開催し、研修を充実させている。</p>				B	B		
	<p>佐用地域を除いて、小中学校が単独校であり連携しやすい環境となったが、集団内の新たな変動が生じ難いとの話も聴く。より意欲を発揚させる方策を連携の中で見出ししていくことも必要ではないか。</p> <p>保幼小中連携は、今までの積上げもあり着実に進んでいる。また、中1ギャップを防ぐため、授業だけでなく部活動見学や交流給食などの取組みはとても良いと思う。</p>							



▲保小連携児童集会

1 未来に向かって「夢」をはぐくむ

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(4) キャリア教育の推進	B	B	①キャリア教育の推進	B	B	○総合的な学習の時間におけるキャリア教育	B	B
			○「トライやる・ウィーク」での職場体験			B	B	
						○目的と方向を持った進路決定	B	B
						○地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業	B	B
			②進路指導の充実	B	B	○進路先と連携した学校説明会	B	B
						○学級活動等における進路指導	B	B
成果と課題	<p>「トライやるウィーク」は、学校と事業所が連携し、充実した活動内容で実施できている。 進路指導では、進路説明会や面談を通して、計画的に指導を行い、将来に向けてより主体的な選択ができるように生徒・保護者に情報を提供している。</p>				評価委員の意見	<p>進路決定や職業選択に至る道程を十分考慮し、初期の「なりたい」夢を育む指導に十分な配慮が必要であり、情報を選択しうる能力の育成にも力を注いでほしい。 「トライやる・ウィーク」での取組みは定着し、住民からも心温かく見守られているが、近年、生き活きと仕事をしている顔が少なくなっているように思う。キャリア教育の難しさもあるが、受け入れてくれる事業所の開拓も必要だと思う。</p>		
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(5) 学校・園と家庭との連携	B	B	①保護者との連携	B	B	○学校だより、学校ホームページ、学級通信、連絡帳、園だよりの活用	B	B
						○参観日	B	B
						○オープンスクール	B	B
			②PTA研修の推進	B	B	○学級懇談会	B	B
						○各単位PTAにおける研修会	B	C
						○佐用郡PTA連合会リーダー研修	B	B
						○PTA学習冊子「家族の絆」の内容検討と編集方法の工夫	B	A
						○PTCA活動支援事業	B	B
			③保育園保護者会研修の推進	B	B	○保育園保護者会連絡協議会研修会	B	B
成果と課題	<p>学校から保護者・地域に向けて積極的に情報を発信できている。 郡PTA、各単位PTAともに、創意工夫しながら充実した研修会を実施できた。 郡PTAの会長会では、積極的な情報交換を行うことができた。 PTA学習冊子「家族の絆」についても例年同様の活動を行うことができています。</p>					評価委員の意見	<p>PTCAの「C」（コミュニティー・地域）が高齢化等で弱体化し、「夢」をはぐくむ連携になり難い実情がある。地域には、子どもに期待を寄せる活動をしている人もかなりあり、うまく連携を強めていく方を考えられたい。 学校から地域・家庭への情報発信はよくなされている。オープンスクール等では、地域をもっと巻き込む取組みがほしい。</p>	



▲PTA小中合同情報モラル研修会

2 「生きる力」を培う

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29		
(1) 確かな学力の定着と個に応じた指導の充実	B	B	① 基礎・基本の確実な習得	B	B	○学年・教科別基礎・基本事項系統表の作成	B	C		
						○学習タイムの設定	B	B		
						○反復学習の実施	B	B		
						○言語活動の充実(授業内での「書く」時間の確保、レポートの作成等)	B	B		
						○佐用町教育事業(確かな学力きらめきプラン)	B	B		
			② 主体的に学ぶ態度の育成	B	B	B	B	○体験的・課題解決的な学習の導入	B	B
								○話し合う活動、言語活動の推進	B	B
								○総合的な学習における探究的活動の推進	B	B
								○進路決定、キャリア教育につながる学習の推進	B	B
								○サイエンス・トライやる事業	B	B
			③ 様々な形態による学習指導の充実	B	B	B	B	○「新学習システム」の推進	B	B
								○個に応じたきめ細やかな指導の推進	B	B
								○佐用町教育事業(少人数指導)	B	A
			④ 特別支援教育の充実	B	B	B	B	○佐用町特別支援連携協議会	B	B
								○交流及び共同学習の推進	B	B
								○居住地交流会	B	B
○佐用町特別支援学級交流会	B	B								
○特別支援教育コーディネーターの活用	B	B								
○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用	B	B								
○「サポートファイル」の共有	B	B								
○佐用町発達障害児等支援連絡会	B	B								
○特別支援教育推進事業	B	B								
○心の健康づくり相談事業	B	B								
○学校生活支援教員配置事業	B	B								
○スクールアシスタント配置事業	B	B								
成果と課題	<p>すべての学校で教科別の基礎基本系統表が作成されているわけではないが、県教委作成の「つまずきポイント指導事例集」等の有効活用について検討されている。</p> <p>少人数指導については新学習システム配置教員等を有効に活用し、きめ細やかな指導を引き続き行うことができている。</p> <p>総合的な学習の時間は地域の特性を生かした課題を設定できている。小学校において平成30年度は各学年15時間少なくなるため、内容の見直しを検討する必要がある。</p> <p>教育支援委員会や心の健康づくり相談事業、スクールアシスタント配置事業、「サポートファイル」等により、支援が必要な児童生徒の支援のあり方について共通理解を図りながら支援を継続して行うことができている。</p>				<p>学力向上の指導については、多様な研究と実践、その検証等がされてきており、個々の児童・生徒にどのように対応すべきか等の工夫がなされている。</p> <p>総合的な学習等による考える力・コミュニケーション力・創造性との育成等について、さらに工夫をしていくことも肝要である。</p> <p>特設学習タイムを設けたり、加配教員が増えたりする中、個別指導が充実していると思う。時数が少なくなった総合的な学習の時間で、自主性や問題解決能力を育てるには、今以上に学年を考慮して系統的に進めていく必要がある。</p>					

2 「生きる力」を培う

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29		
(2) 教職員の 資質向上	B	B	①豊かな人間性の 向上	B	B	○地域行事やボランティア活動への参加	B	B		
						○人権感覚の育成	B	B		
						○各種講座・研修会への参加	B	B		
			②指導力の向上	B	B	B	B	○各校での研究推進	B	B
								○授業研究会の実施	B	B
								○教育委員会指定研究の実施	B	B
								○佐用町教育研究所での研修	A	B
								○兵庫県立教育研修所での研修	C	C
								○教育事務所教科等指導員の活用	C	D
								○佐用町教育事業(教職員研修事業)	B	B
○佐用町教育事業(教科研究会)	B	B								
③情報機器(ICT 等)の積極的活用	B	C	B	C	○ICTを活用した公開授業、効果的な活用法の研究	B	B			
					○電子黒板の活用方法の研究	B	C			
成果と課題	<p>平成29年度から町教育研究所の組織が見直され、町内の研修体制が整備され活性化した。</p> <p>また、ICT機器が導入されるとともに活用研修を行った結果、特に小学校で機器の活用が大幅に増えた。</p> <p>各校で校内研修会を意欲的に行い、教育委員会指導主事の派遣依頼も増加した。</p> <p>管理職研修や初任者研修以外に自主的に県の教育研修所の講座を受講したり、西播磨の教科等指導員を校内研修に招いたりする等、今後さらに積極的な研修が望まれる。</p>					<p>評価委員の意見</p> <p>教育のプロ意識の向上について多様な取り組みがなされているが、さらに自己研鑽に努められるような「仕かけ」を考えられたい。また、ICTの発達を早期に活用できる研究を進め、教員の労働時間の軽減にも配慮されたい。</p> <p>教職員の研修の機会が増えていることはとても良いことである。教育機器の活用や複数指導等、綿密な計画の中で落ち着いた授業が展開されている。</p>				



▲ ICT活用研修会

2 「生きる力」を培う

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29			
(3) 健やかな身体育成	B	B	①食育の推進	B	B	○各校・園における給食指導	B	B			
						○佐用町食育推進計画に基づいた食育の推進	B	B			
						○献立表、給食だより等の活用	B	B			
						○佐用町学校給食の地産地消及び質的向上事業	A	A			
			②心身の健康づくり	B	B	B	B	B	○各校・園における健康教育	B	B
									○薬物の弊害と健康の学習	B	B
									○継続した「からだの記録」の活用	B	B
									○保健室を中心とした保健指導	B	B
									○家庭・専門機関との連携	B	B
									○スクールソーシャルワーカーの活用	B	C
			③体力向上への取組	B	B	B	B	B	○各校・園での体育・スポーツ活動	B	B
									○中学校における部活動	B	B
○各種競技大会への参加促進	B	B									
○ニュースポーツ等の普及	C	C									
						○「運動プログラム」実践推進事業	B	B			
						○体力アップサポーター派遣事業	B	B			
成果と課題	<p>スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの積極的な活用が見られ、課題をもつ児童生徒や保護者の相談にのり、効果的な助言ができた。</p> <p>各校で体力向上の取組を進めている。その中で、上月小学校が体力アップスクール表彰を受賞した。</p> <p>中学校部活動においては、生徒の健康面に配慮し、平日週1日、休日月2日の休養日を設ける取組を進め、全ての中学校で実施している。</p> <p>ニュースポーツの普及については、時間的な理由により年間計画に位置付けることが難しい。</p>					評価委員の意見	<p>ICTのゲーム等に没入したり、不審者等を警戒して外での遊びが減るなど、帰宅後や休日の過ごし方について工夫できないか、地域の力を借りる方法も考えられたい。</p> <p>「からだの記録」については、保護者との懇談に生かすなど活用し、健康教育に努められたい。</p> <p>給食は細かい配慮があり、また地産の食材を利用していることはありがたい。体力向上に向け学校全体で取り組んでいることはいいと思う。</p>				



▲とうもろこしの植え替え

2 「生きる力」を培う

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(4) 豊かな心の育成	B	B	①芸術文化活動の推進	B	B	○小学校芸術鑑賞会	B	B
						○学校・園での文化活動	B	B
						○小中席書大会、小中美術展覧会、小学校連合音楽会、中学校音楽交歓会等の充実	B	B
						○青少年芸術体験事業 ～わくわくオーケストラ教室～	B	B
			②読書活動の推進	B	B	○学校図書室・園内図書の充実	B	B
						○学校・園での読み聞かせ活動	B	B
						○読書タイムの充実	B	B
						○町立図書館との連携(ストーリーテリング等)	B	B
						○佐用町教育事業(図書館教育研究)	A	C
			③特別活動の充実	B	B	○話し合い活動、体験活動の充実	B	B
						○学校行事の工夫改善	B	B
						○児童会、生徒会の自律的活動	B	B
			④道徳教育の研究推進	B	B	○『ほほえみ』『きらめき』の活用	B	B
						○兵庫版道徳教育副読本『こころはばたく』等の活用	B	B
						○『私たちの道徳』の活用	B	B
						○心に響く道徳の授業研究	B	B
○地域教材の掘り起こし	C	C						
○授業研究会の実施	B	B						
成果と課題						○佐用町教育事業(教科等研究会)	B	B
						<p>芸術鑑賞会、文化祭、音楽会等の芸術文化活動を各校の年間計画に位置付け計画的に推進できている。</p> <p>読書活動について、朝読書等で本に親しませる活動を行っている。町立図書館との連携については、小学校では行われているが、中学校との連携が今後の課題である。</p> <p>小学校では道徳の教科化に向けての準備を進め、年間指導計画の見直しを行った。平成30年度から小学校、平成31年度から中学校で教科書が導入されるが、地域教材を掘り起こすための時間を捻出することが課題である。</p>		
						<p>学校での読書時間の確保は困難であり、家庭との連携が必須条件となる。読書意欲を持たせる工夫として、例えば「月間読書数ランキング」の発表などが考えられないか。</p> <p>道徳の教科化については、十分議論し道徳性の育成に努めてほしい。</p> <p>芸術面の取組みは充実していると思う。読書活動も学校全体で推進したり、町立図書館ともよく連携がとれている。道徳の教科化による地域教材の掘り起こしは、授業実践を踏まえながらゆっくり進められたい。</p>		



▲親子読書参観日

3 豊かな人間性や社会性を育てる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29			
(1) 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実	B	B	①問題行動等への指導体制の充実	B	B	○「学校いじめ防止基本方針」に基づく迅速かつ的確な対応	B	B			
						○問題行動、不登校傾向の児童生徒の早期発見・早期指導・未然防止	B	B			
						○佐用町登保小中高児童生徒指導連絡協議会での情報交換・研修会	B	B			
						○スクールカウンセラー、その他関係機関との連携	B	B			
									○佐用町教育事業(生徒指導協議会)	B	B
			②不登校児童生徒への対応	B	B	B	B	○子どもの実情に合わせたきめ細やかな指導	B	B	
								○関係者による適時な家庭訪問の実施	B	B	
								○佐用町適応指導教室「ほっとルーム」との連携	B	C	
								○佐用町青少年育成センター、さよう子育てセンター等関係機関との連携	B	B	
			③相談機能の充実	B	B	B	B	○さよう子育て支援センター等関係機関の連携(ケース会議の開催)	B	B	
								○3歳児・5歳児健診	B	B	
								○心の健康づくり相談事業	B	B	
成果と課題	「佐用町いじめ防止基本方針」に基づいて、未然防止、早期発見、早期対応に努め、学校、保護者、教育委員会、関係機関等で連携しながら対応を図っている。適応指導教室の利用は、長期休業中に体験に来た生徒1人であったが、効果が見られ新学期からの登校につながる事ができた。					かなり成果が見られるが、さらに関係機関との連携強化に努められたい。特に、青少年育成センターや子育て支援センターの把握する事例等での研究を各校でも深められたい。子どもに携わる教職員が多くなり、複数の目で児童生徒を見守ることで心のケアへの早期対応がなされていると思う。					
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29			
(2) 体験活動の推進	B	B	①自然学校の充実	B	B	○自然学校プログラムの工夫(火おこし、野外炊飯、竹細工、天体観測、カヌー等)	B	B			
						○自然学校と他の教育活動との関連の充実	B	B			
						○自然学校推進事業	B	B			
			②「トライやる・ウィーク」の推進	B	B	B	B	○事前・事後指導の充実	B	B	
								○事業所との連携	B	B	
								○地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業	B	B	
			③環境教育の推進	B	B	B	B	○環境体験の実施(大豆、そば等の栽培、ホテル、オオサンショウウオ等の調査)	B	B	
								○総合的な学習の時間を中心とした環境学習	B	B	
								○環境教育副読本『地球はたからもの』の活用	C	B	
								○環境体験事業	B	B	
			④福祉教育の推進	B	B	B	B	○福祉体験活動(アイマスク体験、点字・手話学習、車いす体験等)	B	B	
								○福祉施設での交流活動	B	B	
○高齢者との交流活動	B	B									
成果と課題	ひょうご型の体験活動については、各施設や事業所と事前に打合せをし、児童生徒にとって意義ある活動を行えた。環境体験活動は各学校で校区の実状に合わせ、工夫した取組みが見られた。福祉教育については、福祉施設の訪問をすべての学校で積極的に行っている。					自然学校やトライやる・ウィークについては、成果が年々上がっていくように思われるが、さらなる工夫と危機回避能力の育成等にも配慮されたい。体験活動は興味・関心が高く、充実することで学習効果も大きい。その分、教職員の負担は増えるが授業だけでなくやりがいのある分野になっていると思う。					

3 豊かな人間性や社会性を育てる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(3) 社会の変化への対応力の育成	B	B	①国際化に対応する教育の推進	B	B	○各教科、道徳、総合的な学習の時間等における国際理解教育 ○コミュニケーション能力の育成 ○学習指導要領改正に伴う「外国語活動」への対応 ○国際理解教育推進事業(イングリッシュキャンプ)	B	B
			②情報教育の推進	B	B	○教科の学習と関連付けた情報活用能力の育成 ○情報モラルの指導 ○佐用町教育事業(情報教育研究)	B	B
成果と課題	平成30年度からの小学校外国言語活動の移行措置に向けて、ALTの協力を得て教員を対象に外国語講座を実施し、小学校教員の英語力を高めることができた。ICT機器の導入に伴い、教育研究所が中心となり、研修会を実施した結果、各校での機器の活用が増えた。児童生徒に、ICT機器を使って、多くの情報を提供するとともに、その活用の仕方や、情報モラルについての指導も今後充実させていく。					評価委員の意見	国際理解教育は言語活動に加えて、文化・歴史等幅広い分野での学習の意欲付けが必要である。ユネスコ、ジャイカなど国際的組織等の力を活用にも工夫されたい。 情報機器についてはリスクも大きく、教員間での共通認識を深化する研修にも力を入れる必要がある。 国際理解教育はALTの活用もあり、児童生徒も興味深く学習している。教師の英語力の向上を目指して研修もされている。教育機器の活用もよくなされている。	
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(4) 郷土の伝統文化を大切に育てる心の育成	B	B	①郷土学習の充実	B	B	○副読本『わたしたちのまち郷土佐用町』改訂とそれを活用した郷土学習 ○総合的な学習の時間等における郷土の自然・歴史・文化・伝統の学習 ○地域の祭等伝統的な行事への参加 ○ゲストティーチャーの招聘、実地見学	B	B
			②歴史・文化施設の活用	B	C	○上月歴史資料館・平福郷土館・三日月乃井野陣屋館・佐用町昆虫館・西はりま天文台・ひょうご環境体験館等の活用	B	C
成果と課題	総合的な学習の時間等に、各校で郷土の歴史や文化、自然、産業等について計画的に学習できている。 地域人材をゲストティーチャーとして招いたり、地域に出かけて直接地域の人の話を聞いたりする学習が昨年に比べ増えてきた。 町内の施設を訪れ、見学や体験学習をする機会が増えてきた。今後も、利神城跡や三日月陣屋門等貴重な文化遺産を学校教育の中で有効に活用する取組みを進めていく。					評価委員の意見	高齢化等により、地域の伝統的行事など減少しつつある。地区別懇談会等を通じて教員からも積極的に働きかけ、郷土を育てる態度の育成に貢献してほしい。また、保護者の積極的な参加も大切な要素である。 郷土の自然・歴史・文化・伝統等の学習は小学校において積極的に取り組んでいるが、中学校の学習内容と結びつけるのは難しい面がある。	



▲ママプラザとの交流

4 地域に根ざし開かれた学校・園をつくる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(1) 地域と連携する学校・園づくりの推進	B	B	①地域資源の活用	B	B	○ゲストティーチャーの招聘	B	B
			②開かれた学校・園づくりの推進	B	B	○ひまわり・茶・大豆等の栽培活動	B	B
			③学校評議員会・学校関係者評価の活用	B	B	○社会教育・社会体育施設の活用	B	C
						○オープンスクール・公開保育等の実施	B	B
						○学校・園通信、ホームページ等の充実	B	B
						○学校評議員会の活性化	B	B
						○学校関係者評価の活用	B	B
成果と課題	<p>各小学校・上津中においては、ヒマワリや大豆等の栽培活動を年間計画に積極的に取入れている。</p> <p>中学校部活動において、地域と調整を図りながら、ホタルドームや南光スポーツ公園を有効に活用している。</p> <p>学校通信やオープンスクール等を通して積極的に学校の情報を公開したり、学校評議員の意見や学校関係者評価を学校経営に活かすことができている。</p>					<p>評価委員の意見</p> <p>オープンスクールへの参加は年齢層のかたよりの減少化が進み、内容の工夫の必要があると思う。学校通信は地域づくりセンターなどの「ふれあい喫茶」等の行事にあわせて配布し、学校の活動が目に見えるよう工夫してほしい。</p> <p>どの学校も学習の中で、地域の人・物と連携しながら学習に取り組んでいると思う。上津中学校のような大掛かりなものは別枠のように思う。オープンスクールでは、落ち着いた学習態度が見受けられた。</p>		
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(2) 安全・安心な学校・園づくりの推進	B	B	①安全・安心な施設・設備の充実	B	B	○日常・定期的な施設・設備の安全点検	B	B
			②登下校の安全確保	B	B	○体育館の天井板等の耐震化	B	B
						○学校施設環境改善交付金事業	B	B
						○保護者、地域の関係団体、学校安全ボランティア等との連携	B	B
						○防災無線を活用した下校放送	C	B
						○巡回等の見守り活動	B	B
						○「子どもを守る110番の家」等避難場所の周知	B	B
						○情報を速やかに伝達する体制づくり	B	B
						○スクールバス利用に関わる安全指導	B	B
						○各校における登下校路の安全確認	B	B
						○地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業	B	B
						○交通安全教室、防犯教室	B	B
						○心肺蘇生法講習会	B	B
						○AED講習会	B	B
						○安全対応マニュアルの作成	B	B
成果と課題	<p>安全・安心な施設・設備を充実させるため、各学校とも定期的に点検を行っている。</p> <p>学校施設の改修については、年次計画で進めており、体育館の吊り天井を含めた耐震補強工事はすべての学校で完了している。</p> <p>スクールバスの安全な乗降の仕方など、各学校で実施している。</p> <p>児童による防災行政無線を活用した下校放送実施校は減っているが、巡回等見回り活動の実施、地域や各種団体の協力を得た登下校の見守りなどを継続して実施できている。</p> <p>救急救命講習会は各校で実施できている。</p>					<p>評価委員の意見</p> <p>小学校の統合等により下校放送等のなくなった地域も増え、見守り活動も減少しつつある。地域づくり協議会等との話し合いも考えてほしい。施設・設備の安全点検は、今回の大阪北部地震等での指摘にも留意し、各地区のハザードマップ等での確認作業など先手の堅実な対応にも配慮されたい。</p> <p>学校施設の耐震化が進み、安心して学校生活を送れている。スクールバスの運行も安全を第一に考えられている。ただし、学校生活がスムーズに過ごせるよう、また時間のゆとりがもてるように毎年学校との話し合いを持つことが大切ではないかと思う。登下校時への関心が高くなり、ボランティア活動の機会と人数が増えているのはありがたい。</p>		

4 地域に根ざし開かれた学校・園をつくる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(3) 防災教育の推進	B	B	①防災教育の充実	B	B	○水害の教訓を活かす防災教育の実施 ○防災教育副読本『明日に生きる』改訂版H23, 24の活用 ○佐用町教育事業(防災教育)	B	B
			②防災体制の充実	B	B	○「防災マニュアル」「防災計画」等の作成 ○防災(避難)訓練の実施(地域づくり協議会等との連携訓練) ○危機管理体制の確立	B	B
			③心のケアの充実	B	B	○子どもたちの心の理解 ○スクールカウンセラー等との連携 ○スクールカウンセラー配置事業	B	B
成果と課題	<p>各校において、防災計画を作成し、防災避難訓練を計画的に実施している。統一した「防災マニュアル」については、平成29年度中の完成には至らなかった。スクールソーシャルワーカーが2人配置となり、より効果的な活用ができた。</p>				評価委員の意見	<p>避難訓練については、一部地域役員等の参加も考えて行われており、成果も上がっているが、学校から離れて地域との連携は不十分となっていないか、保護者も含め、多様な角度から検証も必要でないかと思われる。 防災教育は、児童・生徒には常に繰り返し指導されていると思うが、地震時の登下校等の訓練も取り入れたい。</p>		
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(4) 地域の教育活動との連携	B	B	①青少年の健全育成	B	B	○学校・園、家庭、地域、関係機関の連携 ○中学校区ごとの生徒指導部会の充実	B	B
			②地域行事への参加	B	B	○奉仕作業や子ども会行事等への参加	B	B
成果と課題	<p>青少年育成センターと学校、関係機関が連携を取りながら問題解決にあたる事ができている。 各校で奉仕活動を計画し、保護者と汗を流しながら、協力し合う機会を設ける事ができている。</p>				評価委員の意見	<p>地域行事への参加について、保護者等の参加もあり地域の力となっている。教員についても、多忙な中であっても所属地域の行事等に積極的な姿勢を率先垂範すべきとの声がある。 多くの団体の目が温かく注がれていて、問題行動も少ないように思う。地域行事への参加は少なくなったように思うが、取捨選択され、ゆとりある学校生活ができているように思う。</p>		



▲心肺蘇生法講習会

5 明るく豊かで活気に満ちた社会をつくる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(1) 家庭や地域の教育力の向上	B	B	①家庭の教育力の向上	B	B	○ママプラザ(セミナー、サークル活動、学校・園との交流) ○家庭教育にかかる各種講座等の開催 ○家庭教育に関する相談・支援体制の充実 ○地域子ども・子育て支援事業	B	B
			②地域の教育力の向上	B	B	○放課後児童クラブ(学童保育) ○放課後子ども教室	B	B
成果と課題	放課後子ども教室は、三日月小学校区で実施されているが、地域ボランティアの力で特色のある運営が図られている。ボランティアの高齢化が進む中、後継者の育成が課題である。				評価委員の意見	地域の有志ボランティアには、途中参加がしにくい側面がある。うまく交代できるような規則やシステムづくりを初期に考えておくべきである。 学童保育が充実してきたので、校外で遊ぶ姿はほとんど見かけない。家庭で親子が過ごす時間は少なくなっていると思う。食育の大切さをPRし、生活リズムを崩さないことで知力・徳力・体力が維持できることを知らせたい。 学童保育のさらなる充実と地域の子どもを育てる環境づくりのためには、地域づくり協議会等との連携の推進や、広く地域にボランティアを募集することが必要である。		
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(2) 人権文化の創造	B	B	①人権教育の充実	B	B	○人権啓発活動(ポスター、作文、標語等の募集)の推進 ○視聴覚資料を活用した人権啓発研修、講座、人権文化映画会の開催 ○日本語教室の開催	B	B
			②人権教育の連携	B	B	○「人権文化をすすめる町民運動推進会議」の開催 ○人権まちづくりフェスタの開催 ○地域リーダー育成研修会の開催	B	B
成果と課題	通年、視聴覚資料を活用した研修を促している。8月には人権強調月間と連動した講演会・人権啓発映画上映会を開催している。また、11月には、人権フェスタの開催において、標語・ポスター・作文の発表をすることにより人権を尊重する意識を高めている。しかし、事業への参加者が固定化しているため、幅広い年齢層への参加を促す必要がある。				評価委員の意見	啓発活動・研修・フェスタ等のイベント、行事等が固定化、マンネリ化の傾向が見られる。各地域での研修等にも積極的に出向いて、ディスカッションやワークショップ等での「深める議論」を導入したいものである。 人権教育は今までの取組みの積上げもあり、問題は少ないように思う。 時代の進展とともに様々な人権問題に対する取り組みが要求されている。現行事業の中に新しい視点を加え、あらゆる機会をとらえて啓発推進していく必要がある。		
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
(3) 芸術文化の振興	B	B	①拠点施設の充実	B	A	○さよう文化情報センター(美術展・文化祭・芸術鑑賞・小中音楽会・各種サークル活動等) ○上月文化会館・南光文化センター・三日月文化センター(各種サークル活動拠点)	B	A
			②芸術・文化活動の推進	B	B	○文化協会・美術協会・音楽協会等の育成 ○生涯学習活動の展開と支援 ○小学校芸術鑑賞会 ○ホール自主事業	B	B
成果と課題	さよう文化情報センターは、町民の文化振興の拠点施設として、自主事業の開催をはじめ、文化祭、美術展、研修等幅広い利用が定着した。今後さらに、町民の身近な文化施設としてPRを行い、利用者の幅を広げていきたい。また、団体の育成については文化協会・美術協会ともに会員の高齢化が課題であり、若年者層の会員の増加に取り組んでいる。				評価委員の意見	芸術文化活動は、開催回数や参加人数こそ少ないが充実していると思う。 各種サークル活動の充実、発展に向けた支援の充実が望ましい。都市部に比べて芸術鑑賞の機会が少なく、一流の芸術に触れる機会の充実が望まれる。		

5 明るく豊かで活力に満ちた社会をつくる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29		
(4) スポーツ・レクリエーションの振興	B	B	①生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進	B	B	○さようマラソン&ウォーク	B	B		
			②競技力の向上及び人材育成			B	B	○レクリエーションスポーツ大会	B	B
								○佐用郡陸上競技大会	B	B
						○子どもスポーツ大会	B	B		
						○各種交流大会	B	B		
						○地域づくり協議会とスポーツクラブ21との共催	B	B		
						○地域スポーツクラブ事業	C	C		
						○種目別協会の支援	B	B		
						○中学校体育大会の支援	B	B		
						○選手派遣事業(兵庫県郡市区対抗駅伝競走大会)	B	B		
						○温水プールの運営	B	B		
						○指導者研修会の開催	B	B		
成果と課題	<p>スポーツ推進委員会を中心に各種事業を実施しており、例年とほぼ同程度の参加者があり、町民の心身の健全な発達、健康及び体力の保持・増進の推進に寄与している。しかし、参加者は固定化しており、町全体で見ればスポーツにいそしむ人は減少傾向にあると考えられる。このため「佐用町スポーツ推進計画」を平成31年度の策定を目標に検討を進め、より一層の推進を目指す。</p>					<p>子どものスポーツは体力づくり、人間関係の育成、規範意識の育成など多様な目的達成にも寄与できるもので、学校体育として、また部活動として意義深い。生涯スポーツとして全町民のスポーツ推進は、常に見直しをしながら参加しやすく、継続しやすいものを十分考慮し、一部の人だけの楽しみとにならないよう考えてほしい。</p> <p>人口減のため、一見活発でないように見えるが、機会がないのではなく、農作業等で健康を維持している人も多い。小さな単位でのスポーツなら、参加数を増やせるのではないか。</p> <p>最近の人々は健康志向が強く、ウォーキングに励む人も多く見られる。実態を把握しながら個人的な運動、体力づくりを支援する対応も必要ではないか。</p>	評価委員の意見			
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29		
(5) 多様な学習機会の充実	B	B	①図書館活動の推進	B	B	○読み聞かせ活動(図書館職員、図書館ボランティア)、ものづくり講座	B	B		
			②社会教育の充実			B	B	○家庭での読書活動の推進	B	B
			③リーダーの育成					C	C	○生涯学習活動との連携
			○各施設への訪問貸出 ○図書館事業	B	B					
			○様々な生涯学習講座(佐用町高年大学、青少年育成フォーラム等)の開催	B	B					
						○生涯学習推進計画の策定	B	B		
						○生涯学習事業	B	B		
						○指導者養成講座	C	C		
						○さよう子ども体験くらぶ	B	B		
成果と課題	<p>子どもの読書活動を推進するため、「佐用町子ども読書活動推進計画」(2018年度～2022年度版)を策定した。また、図書館活動として読み聞かせ活動、ものづくり講座等为目标どおり開催した。今後、「わらべうたとえほん」等で幼少期での本との親しみを深め、読書活動の充実をめざす。</p> <p>社会教育の充実については、高年大学やさよう子ども体験くらぶの各種事業などを実施し学習機会の充実に努めた。</p> <p>生涯学習推進計画にもとづき、各世代や立場に応じて、多様な講座を開講する必要がある。</p>					<p>福祉給食の配食ボランティアに高齢者への図書貸し出しを依頼するなど良い取り組みもできている。全国的に書店がなくなるなど読書離れの傾向の中、よりよい町民図書館のあり方を研究されたい。</p> <p>図書活動では、企画が充実していると思う。蔵書も要望によく応えていると思う。各支所の図書館を活用したイベントを企画するのも、新たな参加者ができるのでは。</p> <p>各事業とも安定的に展開されている。さらに住民への周知啓発に努め、参加者増を目指されたい。</p>	評価委員の意見			

5 明るく豊かで活力に満ちた社会をつくる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	取組・事業名	H30	H29
	(6) 文化財の保護と地域活動	B		B	①文化財の保存と活用		B	B
成果と課題			②伝統文化の保存と継承	B	B	○地域の祭等伝統的な行事への参加 ○伝統行事の記録調査 ○地域伝統芸能活動の自立支援 ○皆田和紙・伝統的工芸品産業振興事業	B	B
							B	B
<p>利神城跡の国指定は、約2年という短期間であったが諸調査、報告書作成、地権者同意取得等を終え意見具申書を提出し、平成29年10月13日、国指定が実現した。併せて、利神城跡保存活用計画策定事業及び佐用の歴史と文化を磨く未来伝承プロジェクトなど関連事業にも着手した。今後、事業の増大に伴う人員体制の整備も課題となる。</p> <p>伝統文化の保存では、平成30年度のとりまとめをめざし、祭など伝統行事の調査に着手した。</p>				<p>評価委員の意見</p>		<p>伝統文化の行事の担い手が集落によっては極端に少なくなり、町としてどのように調整すべきかを話し合う場づくりも必要ではないか。文化遺産等の保存活用については、財政的な関係もあり集中的な管理システムを構築してゆく必要がある。</p> <p>利神城跡の国指定は、大きな成果である。平福の街並みも整然としている。佐用町の各地の伝統行事が維持できなくなる前に、保存の手だてを考えられたい。</p>		



▲防災学習



▲三代交流田植え

6 社会の変化に対応する学校・園をつくる

重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	具体的な取組・事業名	H30	H29
(1) 学校・園規模適正化の推進・広報	B	B	○学校・園規模適正化の推進	B	B	○学校・園規模適正化推進計画の推進・広報	B	B
成果と課題	平成26年4月に開校した佐用小学校及び南光小学校、平成27年4月に開校した上月小学校のいずれの学校においても、大きな問題もなく一定規模の学級の中で、より多くの友達ができ充実した学校生活を送っている。 学校・園規模適正化推進計画の進捗状況は、三河小学校は、三河地区自治会長会において平成30年度に委員会を再開することが確認された。利神小学校は、平成30年度に懇談会を設置し協議を再開することになっている。		評価委員の意見		少子化はますます加速化しつつあり、規模適正化の推進と共に、地域の活性化の方策を常に議論し、一般行政と教育行政が有機的に機能してゆく難問に挑戦してほしい。一部の声の大きい意見に左右されない取組みを望みたい。 学校・園規模適正化は進み、新しい学校にもすっきりなじんでいると思う。教職員の努力に感謝している。			
重点施策	H30	H29	具体的施策	H30	H29	具体的な取組・事業名	H30	H29
(2) 子ども・子育て支援事業の推進・広報	B	B	○子ども・子育て支援事業の推進	B	B	○子ども・子育て支援事業計画の推進・広報 ○子育て支援事業(小中学校副教材費相当額助成・第2子以降の保育料無料化) ○小中学校校外学習支援事業(JR姫新線運賃・入館料助成)	B	B
成果と課題	昨年に引き続き、子育て支援券(小学生15千円・中学生30千円)の配布及び第2子以降保育料無料化を実施した。 JR姫新線を利用した校外学習は、三河小学校を除く小中学校で実施した。		評価委員の意見		支援事業については常にその成果を点検し、安易な「バラ撒き」にならないよう実効あるものにしていきたい。 子育て支援が増え、少子化対策の一環となっていると思う。子どもの人数を増やすため、空き家等を利用した思い切った施策も必要かと思う。			



▲地域連携研修会

表紙イラスト／塔向賀子(上月学童保育支援員)